日本選手権へ意気込み

クラブ野球 箕島球友会 支局へ優勝報告

埼玉県の西武ドームであった第38回全日本クラブ野球選手権大会（毎日新聞社、日本野球連盟主催）で優勝した和歌山箕島球友会のメンバーが13日、毎日新聞和歌山支局を訪れ、新土居仁昌支局長に優勝を報告した。

西川忠宏監督は2—0で降したミキハウスREDS（京都）との決勝戦について、「1回裏の相手の攻撃で2死一、三塁からの大きなフライを山下（龍二選手）が追いついて捕ったのが大きかった」と振り返った。16打数9安打（5割6分3厘）で首位打者賞を受賞した山口貴樹選手は「体調もよく、ボールがよく見えた」と話した。

箕島球友会はこの大会の優勝により、10月28日に京セラドーム大阪で開幕する第39回社会人野球日本選手権大会に出場する。過去2回の出場では初戦敗退しており、大北匠央主将は「全国のクラブチームの代表として意地を見せたい」と意気込み、クラブ選手権大会で最高殊勲選手賞に輝いた三宅悠投手は「強豪を相手にもリズムを大切に投げたい」と活躍を誓っていた。

日本選手権大会は10月1日に組み合わせ抽選が行われる。

優勝報告に訪れた和歌山箕島球友会の（左から）原井和也ヘッドコーチ、西川監督、大北主将、三宅投手、水田信一郎選手、山口選手 ＝和歌山市西汀丁の毎日新聞和歌山支局で

スポニチ後援 第38回全日本クラブ野球選手権大会最終日 （9日、西武ドーム）

箕島球友会V

準決勝、決勝が行われ、決勝では和歌山箕島球友会（西近畿）がミキハウスREDS（東近畿）を2—0で下し、06年大会以来2度目の優勝を飾った。和歌山箕島球友会は第39回社会人野球日本選手権大会（10月28日開幕、京セラドーム）の出場権を獲得した。

尾藤さんに捧ぐ 三宅悠圧巻完封

＜和歌山箕島球友会＞

チーム創設時から顧問を務め、2年前に死去した箕島の元監督・故尾藤公氏に優勝を捧げた。先発の三宅悠が6安打完封。守備も無失策だった。箕島の77年選抜優勝時に4番を務めていた西川忠宏監督は「〝野球は流れや。流れを逸したら負ける〟と教えられてきた」と、師の教えを忠実に守るナインの戦いぶりに涙。「尾藤さんの野球にまた一歩近づいた」。今度は3度目出場の日本選手権で、企業チームを相手に悲願の初勝利を狙う。

▽準決勝

MSH医療専門学校（中国・四国）	000 000 001	1
ミキハウスREDS（近畿）	102 000 00X	3

（M）中村—松浦
（ミ）山田—金田

水沢駒形倶楽部（東北）	100 000 000	1
和歌山箕島球友会（近畿）	010 100 01X	3

（水）高橋徳、馬場、松本利—玉城
（和）黒川—水田

▽決勝

和歌山箕島球友会	000 000 020	2
ミキハウスREDS	000 000 000	0

（和）三宅悠—水田
（ミ）万谷、山田—金田
※和歌山箕島球友会は7年ぶり2度目の優勝

◇全日本クラブ野球選手権◇

和歌山箕島球友会 2—0 ミキハウスREDS

和歌山箕島球友会	打	安	点
④高橋孝	4	2	1
⑥山口	4	2	1
⑦山下	4	0	0
③藤田	4	0	0
⑤児玉	4	1	0
⑨大北	3	0	0
DH上田	4	1	0
②水田	3	0	0
⑧浦川	3	1	0
計	33	7	2

ミキハウスREDS	打	安	点
⑥簗山	4	0	0
⑤河野	4	1	0
④中本	3	3	0
⑧陣田	4	1	0
DH青山	2	0	0
HD辻田	1	0	0
②金田	3	0	0
⑨村上	3	0	0
③脇山	3	1	0
⑦畠山	0	0	0
7山下	3	0	0
計	30	6	0

▽三塁打 山口 ▽二塁打 上田、浦川

	回	安	責
三宅悠	9	6	0
万谷	8	7	2
山田	1	0	0

	振	球	犠	盗	失
【和】	6	1	0	1	0
【ミ】	6	2	0	0	0

▽球審＝大和 2時間7分

◇全日本クラブ野球選手権表彰選手◇

最高殊勲選手賞	三宅 悠（和歌山箕島球友会）
敢闘賞	山田 秋親（ミキハウスREDS）
首位打者賞 打率.563	山口 貴樹（和歌山箕島球友会）

クラブ野球優勝

箕島球友会 活躍誓う

県庁訪問 日本選手権へ意気込み

埼玉県の西武ドームであった第38回全日本クラブ野球選手権大会（毎日新聞社、日本野球連盟主催）で7年ぶり2回目の優勝を果たした和歌山箕島球友会のメンバーが19日、和歌山市の県庁を訪れ、仁坂吉伸知事に優勝を報告した。

箕島球友会は優勝したことによって、10月28日に京セラドーム大阪（大阪市）で開幕する第39回社会人野球日本選手権大会へ出場する。

優勝報告では、西川忠宏監督(52)が「日本選手権に向け、既に練習を再開しています」と意気込みを語ると、仁坂知事は「頑張ってください。ぜひ応援に行きます」などと応じていた。

また、大北匠央主将(24)はクラブ選手権大会の優勝旗を手にしながら「クラブチームの力を見せられるよう、まずは1勝を目指したい」と語り、同大会で2試合を完封した三宅悠投手(26)は「1球ずつ丁寧に投げれば抑えられる。選手全員がリラックスできるよう試合を作りたい」と活躍を誓った。【川畑展之】

優勝を報告する和歌山箕島球友会の西川忠宏監督（左端）や選手たち＝和歌山市小松原通1の県庁で